

琉球大学学術リポジトリ

地域における「共生」と美術をふくむ「共育」：
沖縄における家庭文庫活動の実践を通じた考察：
[第二部 資料3 恵からの手紙・恵への手紙]

メタデータ	言語： 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-09-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 正秀, Kobayashi, Masahide メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1923

地域における“共生”と美術をふくむ「共育」

— 沖縄における家庭文庫活動の実践を通じた考察 —

〔第二部 資料Ⅲ—^{めぐみ}恵からの手紙・恵への手紙〕*

小林 正 秀

Community Life in Local Community and Intereducation including Aesthetic Education

— A Study through Activities at My Home Library —
for Neighbor Children in OKINAWA from 1981

〔PART II〕

Masahide KOBAYASHI**

(Received August 20, 1984)

^{めぐみ}恵からの手紙

おねえさんへ

私ね、すごくかんげきしたことがあるの それ
はね、ともみおねえさんのことです。

みどりが おねえちゃんの家にとまりにいった
ときに、ともみおねえさんは うらやましそうに
「みどり早くいかないと おねえちゃんがまっ
てるよ。」

と、いっているともみおねえさんを見ていて、
「ともみおねえね いっしょにいきたいでしょ。」
と、なぜかこのことばがでてきてしまいました。
でも、その時 私は ともみおねえさんのこと

ばにかんげきしました。

それは、

「いきたいけど、おばあちゃんをおいて ともみ
は、とまりにはいけないよ。」

と、きいてものすごく かんげきをして、あとか
らかんがえてみても 自分をおいて いもうとの
よろこんではしっていくすがたをみとどけるおね
えさんという ともみおねえさんを見てみると
なんとひょうげんしていいのか なみだがでてく
るほどかんげきでした。

おねえちゃん^がは、こんなに^おおげさにと^お思
うでしょうね。

私のほんとうの気持ちなんです。

おねえちゃん いくらみどりが お母さんが
いなくてかわいそうということは わかるんです

* 本集には前集で予告した第二章以降を掲載する予
定でいたが、別稿もあり、ここに資料Ⅲのみを掲載
することとした。

この資料には、論者の結論の殆ど全てが、一人の
子どもへの手紙の形をとって表明されている。

「恵への手紙」の差出人は、妻恵子であるが、論
者もこれに間接的に関与した。

** Dept. of Arts and Crafts, Coll. of Educ.,
Univ. of the Ryukyus.

が、みんなびょうどうにしてほしいのです。

でも、おねえさんは、心がきれいで みんなすきなんです。

それでも、おねえさんは たくさんいるんでないから みんな一人一人はいちいちみられないでしょう、でも私だって、おねえさんにやさしくされるみどりがうらやましいんです。

私は、なにも やさしくされたくていっているんではありませんが、ともみおねえさんにも おねえさんの あたたかい手をさしのばしてあげて下さい 私からのおねがいです。

私は、ただそれだけでこの手紙をかいたのですが、かいていたときにも、すこしなきそうにもなりました。

でも、おねえさん きにししないで ただ 私が始めてきずいただいじなことを おもいついたところをかいただけなのです。

恵より

めぐみ 恵への手紙

めぐみちゃんへ

めぐみちゃん お手紙ほんとうにありがとう。何度も 何度も読みました。

そして ともみねえねえのこと、めぐみちゃんのこと、みどりのこと、それから ゆうな文庫の子供たちのこと 思いました。

涙があふれてきました。

自分も泊りに行きたいのに その気持ちをじっとこらえて、うれしそうに走っていく妹の後姿をみつめていた ともみねえねえ……

おねえちゃん、なんてわるいことをしてしまっただろうと、ともみねえねえに謝りたい気持ちでいっぱいです。

そして、そんなともみねえねえの心を感じとって、思ったことを正直に手紙に書いてくれためぐみちゃん、ほんとうにありがとう。

おねえちゃん、本当に大事なことを めぐみちゃんから そして ともみねえねえから教^{おし}えられました。

でも、めぐみちゃん、これだけはわかってくださいね。

それは、おねえちゃん、みどりをただかわいくて、えこひいきして泊めたのではないということ。

なぜ、みどりだけを おねえちゃんの家に泊めたのか――。

それには こんないきさつがあったのです。

めぐみちゃん、おかあさんがいないって どんな生活なのかしら……

おねえちゃん、いつもそのこと考えています。

ともみねえねえのおかあさんが ともみをおいて家を出たこと、新しいおかあさんができたけど みどりを生んでいなくなってしまったこと、おとうさんはめったに家に帰らず、生活するためのお金などは 親せきの人が援助^{えんじょ}していること、たまに帰ってきたおとうさんは おばあちゃんから そんなお金まで取りあげてしまうこと、などともみねえねえとみどりの複雑^{ふくざつ}な家庭^{かてい}の事情^{じじょう}を、おねえちゃん、めぐみちゃんのおかあさんから聞きました。そして 思いました。

そんな環境^{かんげい}に育ちながら、どうして ともみねえねえとみどりは あんなに素直^{すなお}で たくましいのかな、って。

「親はなくても 子は育つ」って よくいいますが、おねえちゃん、決して そんなふうには思いません。

子供は親の愛情なしには すくすく健康^{けんこう}に育たないものです。

そして そんなふうにおねえちゃんが疑問^{ぎもん}に思っていたことが 最近^{さいきん}なんとなくわかってきました。

それは、ともみねえねえやみどりのおばあちゃん、親せきの人、そして それだけではなく、めぐみちゃんのおとうさん、おかあさん、しまちゃんのおとうさん、おかあさん、みちこちゃんのおとうさん、おかあさん……近所の人たちみんながともみねえねえとみどりのおとうさん、おかあさんになってくださっていることを知ったからです。

たらいにお湯をわかして背中をふいてくださるめぐみちゃんのおかあさん、プールに行ってお金が払えない時には かわりにお金をだしてくださる しまちゃんのおかあさん、遠足におやつが持っていけない時には おやつを買ってくださる みちこちゃんのおかあさん、そして、「困ったことがあった時にはいつでもおじさんに言いなさい」と 言うてくださる めぐみちゃんのおとうさん……

ともみねえねえとみどりをとりまく たくさんの人たちが みんな我が子のように 子供たちを愛し、見守っていてくださっていることを知ったからです。

そして それと同時に、ともみねえねえとみどりは たくさんのお友だちに恵まれていることを知ったからです。

めぐみちゃん、しまちゃん、みちこちゃん、まさこちゃん、あつこちゃん、やすこちゃん、ときちゃん、あつお、まさお…… みんなまるで自分の家のように お互いに 近所の家に遊びに行ったり、空地で仲良く遊んだり、けんかをしてりしていることを知ったからです。

ともみねえねえとみどりは 血のつながっているおばあちゃんや親せきの人たちだけではなく、血のつながっていない近所の人たち、そして 友だちの暖かい心に支えられて、あんなに素直にたくましく 育っているんだな、って おねえちゃん思いました。

そして そんなふうに「困っている時はお互いさま」と、人の痛みを 自分の痛みのように感じて 助け合って 明るく暮らしている儀保のおとうさん、おかあさんは みんなすばらしく、だから儀保の子供たちは みんな明るく素直でたくましく健康的に育っているんだな、って思いました。

子供がすくすく育っていくのに大切なことは、たくさんのお友だちに恵まれること、それから地域(近所)の人たちの暖かい心のつながりなのだ、って おねえちゃん、沖縄の儀保に生きる人たちに教えられました。

沖縄に引越してきて1年余り、ゆうな文庫でめぐり逢った子供たち、人々を通して、おねえちゃん、人間が生きていく上で 何が一番大事なもののかな、ということを知りました。

沖縄に住んで、沖縄に住む人々といっしょに生きて、そしておねえちゃんの肌で感じ、体験的に学んだこのすばらしいこと!!

………(中略)………

そんなことから おねえちゃん、みどりを彫刻につくりたい!!と思うようになりました。助け合い、たくましく生きる沖縄の人々の象徴として……。

でも、彫刻をつくる、っていっても そんなに簡単にはできるものではありません。まず最初に、みどりの顔、いろんな方向から何枚もデッサンしなければなりません。

そのことをみどりに話して、モデルになってもらう件、みどりに承知してもらいました。そして第1回目のデッサン日、9月12日の日曜日、午前11時から……という約束をしました。

おじさんが丁度出張で 11日・12日と2日間家にいないので ゆっくりデッサンができると思ったのです。

そのことおじさんに話しました。そしたらおじさんは、

「おばあちゃんが許してくれるなら、みどりを家に泊めたらどうか」というのです。

おねえちゃん、ちょっと考えて、「みどりだけを家に泊めたら他の子供に悪いし、第一、大人が心配するより 子供はずっとたくましいよ」って おじさんに言いました。

そしたらね、おじさんに、おねえちゃん こう言われました。

「たくましいっていうことと 母親の愛を求めているっていうことは 別のことなんだよ」って。

めぐみちゃん、うちのおじさんね、5才の時、いろんな事情があって、本当のおとうさんのおねえさんのところの養子になったんです。だから本当のおとうさんとおかあさんじゃない人に育てられたんですよ。おかあさんがとてもきびしくて(きっと自分の本当の子供じゃないから、その分りっぱに育てようとなさったんでしょね) おじさんね、子供の頃から、おかあさんと顔も似ていないし、もしかしたら おかあさんの本当の子供じゃないんじゃないかって 思っていたんだそうです。

そして、そんなさびしさを、おじさんは画集を

見たり、本を読んだり……自分の心の世界を広げていくことで乗りこえたんだそうです。

おねえちゃん、おじさんから、そんなおじさんの少年時代の話を聞いていたものですから、それで、おねえちゃん、おじさんに言われたことよく考えて、おじさんの言う通り、みどりを泊めることにしました。

幸い、おばあちゃんからお許しをいただいて、11日・12日と、みどりといっしょに過ごすことができました。少しの間だけだったけど、みどりといっしょに暮らして「ああ、おじさんの言う通り、みどりを泊めて本当によかったなあ」と思いました。

それはみどりの笑顔が実にかわいかったことに加えて、こんなことがあったからです。

12日の朝、おねえちゃんが台所で朝ごはんをつくっていた時のことです。みどりは別の部屋でレコードを聞いていました。

「みどり、おねえちゃん、朝ごはんつくるから、その間、レコードでも聞いててね」といって、台所でのおねえちゃん、お料理つくっていました。そしたらね、レコードを聞いているはずのみどりが、いつのまにか、そおっとおねえちゃんの後姿を見に来ていたのです。

おねえちゃんに気付かれて、すぐまたレコード聞きに戻っていきましたが、おねえちゃん、その時、胸がジーンとあつくなりました。

台所で自分のためにお料理をつくっているおねえちゃんの後姿を、みどりはどんな気持ちでみていたんでしょうか……

それからね、こんなこと聞かれました。

おねえちゃん、みどりにね、ことあることにいろんなこと教えました。おはしのもち方、お茶のいれ方など、いろんなこと……

そしたらね、めぐみちゃん、みどりがね、

「おねえちゃん、いろんなこと誰から教えてもらったの」って聞くんですよ。それでおねえちゃん、正直に、

「おねえちゃんのおとうさんとおかあさんからだよ。でも、友だちに教えてもらったり、結婚してからおじさんに教えてもらったこともあるよ」って答えました。

めぐみちゃん、おねえちゃん、この時、「ああ、

おねえちゃんの知ってること全部この子に教えたいな」と思いました。

夜、寝る時は本を読んであげました。（おねえちゃんの夢だったんです。自分の子供にそうしてあげたいと思っていたので）それから夜なかにみどりが「寒い」といっていったので、おねえちゃん抱いてあっためました。

楽しかったなあ——！！

もちろんみどりのデッサンもさせてもらいましたよ。

ずい分長くなってしまいましたが、こんなことがみどりをおねえちゃんの家泊めた理由です。

でも、めぐみちゃんの言う通り、ともみねえねえを悲しませてしまったこと、おねえちゃんの責任です。心から反省しました。

これからもみどりを家に呼んでモデルになってもらう、というようなこと、たびたびあると思いますので、ともみねえねえに誤解のないように、みどりをだけをえこひいきしているのではない、ということ、ともみねえねえにお話ししておきますね。

めぐみちゃんにもごめんなさい。そしてどうもありがとうございます！

……………（中略）……………

めぐみちゃん、おねえちゃんにほんとうの気持ちをぶつけてくれたこと、おねえちゃん、ほんとうにうれしく思います。どうもありがとうございます！！

そしてこんなに長い長い手紙、最後まで読んでくれて本当にありがとうございます！！

9月21日

おねえちゃんより

追伸

（略）

（1982.）